

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ピース		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月10日	～	令和8年 2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 16名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月10日	～	令和8年 2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との連絡を密に行っている。 直接お話を伺ったり電話で話したりだけでなく、LINEを活用して写真を共有したりと、事業所内での様子や変化を分かりやすく保護者に伝えられている。 また、保護者や利用児の悩みや困り事に対して全スタッフで対応・共有し、保護者や利用児に寄り添った支援を心がけている。	日によって違うさまざまな活動プログラムや、季節毎の制作活動、運動療育やクッキングなど、利用児にとって親しみがあり楽しめる活動設定を行っている。 個別活動では、利用児の特性等を考慮して専用の教材を使用することで、苦手の克服や得意を伸ばしていく工夫をしている。	特性や年齢に応じた活動を行っており、特に中高生以上の児童に関しては、就労に向けての作業活動にも取り組んでいる。 希望する児童や保護者に対しては、就労支援事業所への見学・体験にも同伴し、実際の作業に近い個別活動を取り入れている。
2	スタッフ間の連携が密に取れている。	全体周知には会議や連絡ノートの活用、活動内でも常に声をかけ合い、利用児の行動や体調、食事や排泄の様子等をタイムリーに共有している。	保護者対応に関しては、対応するスタッフを管理者や児発管に限定せず、スタッフ全体の意見をまとめた上で、保護者の相談や悩みに応じて適切に対応出来るスタッフをメインに行っている。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人数が多い日では、活動や時間に若干の制限が出来てしまう。	事業所の物理的キャパシティの問題	事業所内のレイアウトを変更して、スタッフが室内を見渡しやすく、利用児の活動スペースを拡大した。
2			
3			